

質問等	回答
1 核鑑識ライブラリー構築はどのくらい進んでいるのか。	核鑑識ライブラリーは核鑑識で分析したデータを照合するための核物質等のデータベースやデータ解析技術、専門家の知見などを含む総合的な知識システムと定義されており、国家的な核鑑識ライブラリー構築の要否は各国の判断に委ねられています。国際的に見ても国家核鑑識ライブラリーの構築を進めている国は非常に数少ない状況です。日本においては、ISCNが将来的な国家核鑑識ライブラリー構築の可能性を念頭に、JAEAが過去の研究開発で蓄積した核物質等に関する分析データや核燃料サイクル施設に関する情報を活用して、核鑑識ライブラリーに関するデータベースシステムのプロトタイプ開発やデータ解析技術の開発を進めています。また、技術開発で得られた知見を国際社会と共有することで、国際的な核鑑識能力の強化に貢献しています。
2 核セキュリティにおいて、地震や津波等防災に関するスコープはあるか。	核セキュリティは核物質・施設を悪意ある行為(核テロ等)から守ることであり、想定される脅威は自然災害ではなく「人の行為」です。ただし、核セキュリティ事案発生後の対応(被害削減・封じ込め、避難、除染等)は自然災害による原子力災害への対応と共通点が多いです。また自然災害発生時の混乱に便乗した核テロ行為も想定しておく必要があります。
3 核セキュリティのデータ処理にAI導入とかはあるのか。	原子力施設では、アクセス権限を持たない人の入域を阻止するため、生体認証技術が使われることがあります。顔認証システムの中にはAI技術を使うものも出てきています。
4 JAEAではオンライン・トレーニングを開発し、実施したとのことですが、受講者の理解度・満足度や、相手先の国・機関からの評価が気になります。具体例などがありましたら、お伺いしたいです。	過去のニューズレターにオンラインコースの開催報告を掲載しておりますので、ご覧ください。 ・核物質防護に関するアジア地域向けオンラインコース(PP RTC) (No.0286 November, 2020) < https://www.jaea.go.jp/04/isdn/nnp_news/attached/0286.pdf#page=19 > ・追加議定書及び大量破壊兵器物資識別に係るオンライントレーニング(No.0290 February, 2021) < https://www.jaea.go.jp/04/isdn/nnp_news/attached/0290.pdf#page=16 >
5 ニュートリノで原子炉監視等が考えられているが、核物質全般にも適用できるか。	原子炉内での核反応などでは多くのニュートリノが放出されますが、核物質からはほとんど放出されないため適用は困難と思われます。
6 核セキュリティにおいて、リスクコミュニケーションだけでなく、メリットコミュニケーションは可能か。	メリットコミュニケーションを「核セキュリティ対策がどれだけメリットがあったか」ということだとすると、核セキュリティ対策による核テロの抑止効果を測定することはできないため、難しいと思われます。
7 日本の技術の英語での情報発信は重要だと思います。一方で、ウラン濃縮と再処理技術の情報共有(英語での情報発信)は、機微情報の精査など慎重にされたほうが良いのではないのでしょうか？	機構では情報発信にあたっては、言語や媒体にかかわらず、技術漏洩につながらないよう手順に則って情報発信を行っております。

この他にもご質問頂きましたが、ご質問の内容が機構の業務や国際フォーラムの議論の趣旨と関連しない内容でしたので、割愛させていただきます